

令和 5 年度 豊郷中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

温かな人間関係のもと、豊かな心を持ち、自ら学び主体的に生きようとする生徒の育成

- | | |
|--|---|
| (1) 基本目標 | (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など） |
| <ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健康で気力あふれる生徒 自主的に学び創造性にとむ生徒 思いやりがあり心豊かな生徒 勤労と責任を重んじ実践力のある生徒 | <ul style="list-style-type: none"> 心身を鍛える生徒 自主的に学ぶ生徒 思いやりのある生徒 最後までやり抜く生徒 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- 一人一人の生徒が希望をもって生き生きと活動している学校
- 保護者・地域から信頼され活力のある学校
- 教職員一人一人が自己の能力を十分に発揮できる働きがいのある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

本校のスローガン

「笑顔と感動のあふれる学校 豊郷中 ～通じ合う心 粘り強い努力～」

「豊郷地域学校園教育ビジョン」（とよさとの学び）

- 「豊かな郷の生き生きとした子どもたち」

〔重点課題〕

- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現するため、分かる授業の実践や学習態度の育成、学習習慣の定着などにより学力向上を図る。
- ・ すべての教育活動を通して心の教育を推進し、豊かな心と社会性の育成を図る。
- ・ 元気アップ教育の推進とともに、健康や体力への意識を高め健やかな心と体の育成と活力ある生活の確立を図る。
- ・ 家庭・地域との連携・協力を深め活気あふれる学校づくりに努める。
- ・ 各種教育活動の精選化とともにミドルリーダーを核とした校内組織の活性化・重点化により教職員の働き方改革を推進する

◇ 頑張る学校プロジェクト名 「感動プロジェクト」

- (1) 特色ある学校づくりとして目指すもの

温かな人間関係のもと豊かな心を持ち、自ら学び主体的に生きようとする生徒を育む学校づくり

- (2) 育てたい資質・能力

ア 自分で課題を見つけ、主体的に取り組み、話し合い等により考えを深め、よりよく問題を解決する能力

イ 規範意識を持ち、思いやりの心や感動する心などの豊かな人間性や社会性をもつこと

- (3) 具体的取組

ア 授業において、互いを認め合い励まし合う学習活動の中で、教材や I C T を効果的に活用しながら、生徒の能動的・主体的学びを引き出す工夫をする。

イ 学級活動や学校行事・生徒会活動の充実、部活動の推進、タイム着席の実施等を通して、自ら考え判断し行動する場をより多く設け、主体的態度や自立・自律の態度を育成し、生徒のもつ多様な資質・能力の向上を図る。

ウ 宮つ子チャレンジウィーク、地域の文化財や自然（瓦塚古墳・北山古墳等）を守る活動、地域行事への参加、各種ボランティア活動等を充実させ、自己の在り方を見つめ、よりよく生きようとする態度や地域を愛する心を育てる。

エ 教科指導、道徳、学級活動、生徒会活動、学校行事等横断的な視点での関連付けを図り、生徒の学びを深める。

オ 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携して、小中一貫教育や地域学校園の取組を進める。

カ 緑化・諸掲示・美術・音楽・言語・生活習慣等の教育環境を、教科学習・生徒会活動・学級活動等の活動を通して整備・充実を図る。

キ 質の高い文化・芸術に触れる機会や様々な人々との交流活動等を通し豊かな感性や思いやりの心を養う。

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法、学校教育法などの基盤的法律の理念の下、学校教育法施行令、学校教育法施行規則、中学校学習指導要領等に示された規準及び栃木県教育行政基本方針、宇都宮市学校教育の推進計画等の示すところに従い、公教育の自覚のもと全教職員の理解と協力により、本校教育目標の達成を目指して教育課程を編成する。
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮する。
- (3) 道徳教育は、特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う。道徳科の時間だけでなく、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行う。また、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、職場体験活動やボランティア活動、自然体験、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実する。指導内容が、生徒の日常生活に生かされるように、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意する。
- (4) 体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努める。食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科、及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努める。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎的能力が培われるよう配慮する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - ・ミドルリーダーを核とした校内組織の活性化を図り、校内業務の精選化・効率化を推進する。
 - ・教職員一人一人が勤務時間を意識した働き方を推進する。
- (2) 学習指導
 - ・言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成を図る。
 - 学力向上を目指し家庭及び地域学校園と連携した「豊郷の豊かな学び」の実現を目指す。
- (3) 児童生徒指導
 - 自主性と豊かな心や社会性をもった生徒の育成を図る。一家庭・地域や小学校との連携を図って一
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
 - ・自ら運動に親しみ、体力の向上に励む生徒の育成を図る。
 - ・自己の心身を大切にし、健康的生活習慣が確立した生徒の育成を図る。
 - 正しい知識や望ましい生活習慣を身につけ、食への関心を持つ生徒の育成を図る。
 - ・危険を予測し、自らの命を守ることができる生徒の育成を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
-------------------------	------	----------	-----	----

1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「生徒は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、粘り強く学習に取り組んでいる」肯定的回答 90%以上	① 学習課題の提示（「はっきり」）やふり返り（「すっきり」）の設定を工夫し、生徒が主体的に学ぶ授業の実践に努める。 ② 生徒一人一人が自分の考えを持つ（「じっくり」）ことによって、発見のある授業づくりに努める。 ③ 生徒の対話を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばす指導の充実を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R4</th><th>R5</th><th>比較</th></tr> <tr> <td>生徒</td><td>93.2</td><td>93.3</td><td>+0.1</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>0</td></tr> </table> 【次年度の方針】 宇都宮モデル「はっきり」「じっくり」「すっきり」に基づいた、分かる授業づくりを継続して推進する。主体的な学びを実現するために、1人1台端末の効果的な活用を工夫していく。		R4	R5	比較	生徒	93.2	93.3	+0.1	教職員	100.0	100.0	0
	R4	R5	比較												
生徒	93.2	93.3	+0.1												
教職員	100.0	100.0	0												
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」肯定的回答 90%以上	① 「特別の教科 道徳」の充実のために、道徳科の授業づくりとして、「考え、議論する道徳」を目指し、授業改善を図る。 ② 豊かな感性を育む機会の充実のため、朝の学習時の読書活動「朝読」を取り入れるとともに、学校図書館司書と連携した読書活動に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R4</th><th>R5</th><th>比較</th></tr> <tr> <td>生徒</td><td>91.4</td><td>94.6</td><td>+3.2</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>94.9</td><td>97.4</td><td>+2.5</td></tr> </table> 【次年度の方針】 「特別の教科 道徳」の具合的取組にローテーション道徳を明記する。ローテーション道徳を行うことで、生徒が多様な価値観に触れ、多角的に考える生徒を育成する。		R4	R5	比較	生徒	91.4	94.6	+3.2	教職員	94.9	97.4	+2.5
	R4	R5	比較												
生徒	91.4	94.6	+3.2												
教職員	94.9	97.4	+2.5												
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」肯定的回答 85%以上	① 「挑戦する」活動、「がまんして」やり続ける活動、「あきらめず」努力する活動を意図的に設定し「笑顔と感動のあふれる学校」を目指す。 ② 生徒のよさや努力を認め、意欲を高める指導の充実を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R4</th><th>R5</th><th>比較</th></tr> <tr> <td>生徒</td><td>88.1</td><td>89.1</td><td>+1.0</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>84.6</td><td>89.5</td><td>+4.9</td></tr> </table> 【次年度の方針】 スモールステップでの達成感を得る機会を数多く作り、認め賞賛しながら生徒に自信をもたせる。また、様々な活動において「挑戦」「がまん」「あきらめない」というテーマ設定を行い、生徒の意欲を喚起する。		R4	R5	比較	生徒	88.1	89.1	+1.0	教職員	84.6	89.5	+4.9
	R4	R5	比較												
生徒	88.1	89.1	+1.0												
教職員	84.6	89.5	+4.9												
1ー(4) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」肯定的回答 90%以上	① 健康診断・新体力テスト等の結果を参考にして、体位・体力の調和と均整がとれるよう各運動領域での補強運動の工夫をする。 ② 給食の時間における食に関する指導の充実のため、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化について、教科等において関連を図りながら指導する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R4</th><th>R5</th><th>比較</th></tr> <tr> <td>生徒</td><td>93.1</td><td>93.9</td><td>+0.8</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>94.9</td><td>89.5</td><td>-5.4</td></tr> </table> 【次年度の方針】 保健体育・給食指導を通じた健康面に関する指導は継続しつつ、安全面について生徒が自己指導能力を高められるように、生徒会（安全委員会等）の取組を拡充していく。		R4	R5	比較	生徒	93.1	93.9	+0.8	教職員	94.9	89.5	-5.4
	R4	R5	比較												
生徒	93.1	93.9	+0.8												
教職員	94.9	89.5	-5.4												
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「生徒は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している」肯定的回答 90%以上	① どの生徒も活躍できる場を意図的に設定するなど、自己存在感のある学校を目指す。 ② 様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決しより良い生活が送れるよう指導する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R4</th><th>R5</th><th>比較</th></tr> <tr> <td>生徒</td><td>※</td><td>91.5</td><td></td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>※</td><td>94.7</td><td></td></tr> </table> 【次年度の方針】 学校行事等を効果的に活用し、自己肯定感や自己有用感を高められるよう支援していく。		R4	R5	比較	生徒	※	91.5		教職員	※	94.7	
	R4	R5	比較												
生徒	※	91.5													
教職員	※	94.7													

2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 生徒は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「生徒は、英語の授業やALT との交流の際に、英語を使 ってコミュニケーションしている」 肯定的回答85%以上	① 英語科教員の共通理解のもと、英 語の授業では、1年時から英語での 指示等を行う場面を増やし、積極的 に英語を使う態度を養う。 ② 授業以外でもALTの活用を工夫し、日常的に英語に親しむ機会を 作る。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>87.0</td><td>81.1</td><td>-5.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>79.5</td><td>92.1</td><td>+12.6</td></tr></table> 【次年度の方針】 英語を使う場面に応じて、表現の使い分け ができるよう指導する。		R4	R5	比較	生徒	87.0	81.1	-5.9	教職員	79.5	92.1	+12.6
		R4	R5	比較												
生徒	87.0	81.1	-5.9													
教職員	79.5	92.1	+12.6													
A 7 児童生徒は、宇都宮の 良さを知っている。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「生徒は、宇都宮の良さを知 っている」 肯定的回答85%以上	① 宇都宮学を始めとした教科領域 での授業を通して、郷土を資料や題 材とした授業の展開を進める。 ② 古墳清掃で、愛護会や市文化課と ともに活動することを通して、生徒 の意識を地域や社会に向けさせた 広い視野を育てる。また、掲示物を 工夫するなどして意識の高揚を図 る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>85.2</td><td>82.4</td><td>-2.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>76.9</td><td>73.7</td><td>-3.2</td></tr></table> 【次年度の方針】 郷土資料や郷土を題材とした教材を積極的 に活用し、宇都宮の良さを積極的に発信して いく。また、地域協議会と協働しての古墳清 掃など地域の史跡に触れる機会を設定し郷土 愛を育む。		R4	R5	比較	生徒	85.2	82.4	-2.8	教職員	76.9	73.7	-3.2	
	R4	R5	比較													
生徒	85.2	82.4	-2.8													
教職員	76.9	73.7	-3.2													
2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用して いる。 【数値指標】 (教職員) 「生徒は、デジタル機器や図 書等を学習に活用している」 肯定的回答90%以上	① 情報社会に対応した情報活用能 力を育成するため、「情報モラル教 育」の充実を図り、「宇都宮市情報モ ラル教育年間指導計画」に基づく、 発達段階に合わせた体系的・継続的 指導を行う。 ② 教職員の研修を充実し、さまざ まな教科で、1人1台端末を活用した 授業を実践する	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.4</td><td>100.0</td><td>+2.6</td></tr></table> 【次年度の方針】 情報モラル教育については喫緊の課題とと らえ生徒の発達段階を考慮しながら継続指導 する。また効果的なICT活用に向け、スク ールタクトなど、協働的な学びに有効と言わ れるアプリについて教職員の研修等で取り上 げ情報の共有を行う。		R4	R5	比較	教職員	97.4	100.0	+2.6				
	R4	R5	比較													
教職員	97.4	100.0	+2.6													
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社 会」について、関心をもっ ている。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「生徒は、「持続可能な社会」 について、関心をもっている」 肯定的回答85%以上	① 各生徒会専門委員会でSDGs の取組を継続的に実践することで、 「持続可能な社会」への意識を高め る。 ② 教科指導のなかで、意図的に持続 可能な社会に関わる題材を取り上 げることで、生徒・教師共に自分た ちの問題として考え実践しようと する態度を育む。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>79.3</td><td>82.8</td><td>+3.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>82.1</td><td>78.9</td><td>-3.2</td></tr></table> 【次年度の方針】 今年度、生徒会専門委員会での継続した活 動ができなかったので、新年度より新たに生 徒会専門委員会の取組にSDGsに関するもの を取り入れ、「持続可能な社会」への意識を 高める。		R4	R5	比較	生徒	79.3	82.8	+3.5	教職員	82.1	78.9	-3.2
	R4	R5	比較													
生徒	79.3	82.8	+3.5													
教職員	82.1	78.9	-3.2													
3ー(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする生徒の実態に 応じて、適切な支援をして いる。 【数値指標】 (教職員) 「教職員は、特別な支援を必 要とする生徒の実態に応じ て、適切な支援をしている」 肯定的回答85%以上	① 生徒一人一人の実情を把握し、特 別な支援を必要とする生徒に対し て、その実態に応じた支援ができる よう、特別支援教育コーディネー ターを核とした連携を密にする。 ② 特別な支援を必要とする生徒に ついてのケース会議等を持ち、具体 的な支援の形を職員、保護者で共有 する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>87.2</td><td>89.5</td><td>+2.3</td></tr></table> 【次年度の方針】 教育相談部会等での定期的な情報共有や学 年内での情報共有を綿密に行い、特別支援教 育コーディネーターを中心に、組織的な支援 体制を整える。学校生活アンケートやスタン ダードダイアリーを活用し、生徒の心の変化 を見逃さず、早期に適切な支援をしていく。		R4	R5	比較	教職員	87.2	89.5	+2.3				
	R4	R5	比較													
教職員	87.2	89.5	+2.3													

3ー(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 (生徒・保護者) 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 肯定的回答85%以上	① 生徒一人一人に丁寧に向き合うとともに、いじめの定期的なアンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応に努める。 ② 生徒・保護者との連携を密にし、信頼関係を築きながら早期発見・早期対応を図る。また、学校の取り組みなどの情報を発信して、保護者の理解を深める。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>94.7</td><td>95.4</td><td>+0.7</td></tr><tr><td>保護者</td><td>76.9</td><td>68.3</td><td>-8.6</td></tr></table> 【次年度の方針】 教職員はいじめに対してきちんと指導しているが、その様子が十分に保護者等に伝わっていない。いじめに対する指導は継続したうえで、次年度は指導（取組）についての発信を強化していく。		R4	R5	比較	生徒	94.7	95.4	+0.7	保護者	76.9	68.3	-8.6
		R4		R5	比較											
生徒	94.7	95.4	+0.7													
保護者	76.9	68.3	-8.6													
A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「先生方は、一人一人を大切にし、生徒がともに認め合うクラスをつくっている」 肯定的回答90%以上	① 新たな不登校を生まないため、「挨拶」「励まし」「賞賛」など、身近な言葉かけを大切に学級経営を行う。 ③ どの生徒も活躍できる場を意図的に設定するなど、自己存在感のある学校を目指す。 ③ 教育相談機能を強化し、不登校傾向にある生徒の早期発見と学校体制での支援を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>93.6</td><td>95.2</td><td>+1.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>92.3</td><td>97.4</td><td>+5.1</td></tr></table> 【次年度の方針】 生徒にとって学級が、安全・安心かつ楽しい居場所となるよう、学校や学年で組織的に学級経営を充実させていく。生徒一人一人が活躍できる機会を意図的に設定し、自己存在感や自己有用感が育まれるような働きかけを行う。		R4	R5	比較	生徒	93.6	95.2	+1.6	教職員	92.3	97.4	+5.1	
	R4		R5	比較												
生徒	93.6	95.2	+1.6													
教職員	92.3	97.4	+5.1													
3ー(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいそいそとした雰囲気である。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「教職員は、児童（生徒）の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいそいそと学校生活を送れるようにしている」 肯定的回答90%以上	① 「挨拶」「励まし」「賞賛」など、身近な言葉かけを大切に学校・学級経営を行う。 ② 学校教育全体を通して、生徒の笑顔があふれるように、生徒の自発的・主体的活動を積極的に取り入れ指導に当たる。 ③ どの生徒も活躍できる場を意図的に設定するなど、自己存在感のある学校、感動のある学校づくりを推進する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>85.9</td><td>95.6</td><td>+9.7</td></tr><tr><td>教職員</td><td>87.2</td><td>97.4</td><td>+10.2</td></tr></table> 【次年度の方針】 生徒と教員が話す時間を増やすとともに、「励まし」「賞賛」など、身近な場面でポジティブな言葉かけを大切に、生徒の笑顔があふれるようにする。生徒の自発的・主体的活動を積極的に取り入れ、自己肯定感や自己有用感を高める指導を行う。		R4	R5	比較	生徒	85.9	95.6	+9.7	教職員	87.2	97.4	+10.2
	R4	R5		比較												
生徒	85.9	95.6	+9.7													
教職員	87.2	97.4	+10.2													
3ー(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化																
4ー(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 (生徒・教職員) 「先生方は、授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 肯定的回答90%以上	○① 授業において、互いに認め合い励まし合う学習の場を作るよう努力し、毎時間の目標と評価を関連づけた指導を徹底する。 ② 「分かる楽しい授業」のために体験的活動を取り入れた授業展開を工夫し、生徒一人一人の学習意欲の向上を図る。 ③ 1人1台端末を効果的に利用し分かる授業を展開する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>89.2</td><td>92.2</td><td>+3.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td><td>94.7</td><td>-5.3</td></tr></table> 【次年度の方針】 分かる楽しい授業の実現に向け教職員も一人一授業公開や相互授業参観等を通じた自己研鑽や授業展開の工夫に取り組み、授業力向上に努める。学習活動の中で、教材やICTを効果的に活用しながら、生徒の能動的・主体的学びを引き出す工夫をする。		R4	R5	比較	生徒	89.2	92.2	+3.0	教職員	100.0	94.7	-5.3
	R4	R5	比較													
生徒	89.2	92.2	+3.0													
教職員	100.0	94.7	-5.3													

4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 (教職員) 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 肯定的回答 90%以上	① 学校の組織力を強化し、生徒への指導・支援の充実を図るため、教員同士の連携を密にする。 ② チームとしての学校の力を高めていくために、ベテラン教員の経験を生かせる配置やミドルリーダーを中心とした業務分担、若手教員の活躍の場を意図的に設定する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>82.1</td><td>78.9</td><td>-3.2</td></tr> </table> 【次年度の方針】 職員一人一人が自分の意見や考えを言いやすく、多様な考えが認められる学校経営・学年経営に努める。また、教員の能力や特性が十分発揮できるな校務分掌や校内体制を目指す。		R4	R5	比較	教職員	82.1	78.9	-3.2								
	R4	R5	比較																
教職員	82.1	78.9	-3.2																
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 (教職員) 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 肯定的回答 85%以上	① 月に一度のリフレッシュデーの定時退庁をめざし、計画的な業務遂行や、退庁時間から逆算した業務遂行を意識する。 ② プライベートの充実が仕事の充実につながるという意識を持ち「ワークライフバランス」の取れた働き方への意識改革を進める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>61.5</td><td>68.4</td><td>+6.9</td></tr> </table> 【次年度の方針】 今年度に引き続き、業務の見直しや、校務分掌の適正化、放課後時間の確保など、量的な業務の改善を図るとともに、学校全体としての定時退庁日の設定や時間から逆算をした業務への取組など、ワークライフバランスの取れた働き方への意識改革を進める。		R4	R5	比較	教職員	61.5	68.4	+6.9								
	R4	R5	比較																
教職員	61.5	68.4	+6.9																
5-(1) 全学的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 (教職員) 「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」 肯定的回答 85%以上	○① 豊郷地域の子供たちを9か年を通して育成するという共通認識のもと、小中で連携を図っていく。 ○② 計画的に運営委員会、各部会を実施し、小学校との連絡・調整を図り、社会情勢に合わせた様々な活動を工夫する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>87.2</td><td>78.9</td><td>-8.3</td></tr> </table> 【次年度の方針】 運営部会が中心となり、できることできないこと、効果的なことそうでないこと等を十分に検討し、実効性のある活動にする。朝のあいさつ運動だけでなく、小学校の学校行事にも中学生がボランティアとして参加できるようにしていく。		R4	R5	比較	教職員	87.2	78.9	-8.3								
	R4	R5	比較																
教職員	87.2	78.9	-8.3																
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 (教職員・保護者・地域住民) 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 肯定的回答 85%以上	① 家庭への積極的な情報発信と相互理解を推進するため、学校の取組や生徒の様子の情報発信に、各種通知や学校HPの利用、保護者会や三者懇談の機会を活用する。 ② 魅力ある学校づくり地域協議会との連携を強化し、保護者や地域住民の意見を的確に学校運営に反映させる。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>97.4</td><td>89.5</td><td>-7.9</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>84.0</td><td>78.4</td><td>-5.6</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>0</td></tr> </table> 【次年度の方針】 保護者が学校に来る機会が拡充し、生徒の様子を見てもらうとともに、各種たよりや学校HP等を充実させて情報発信をし、保護者や地域の理解や協力が得られるように努める。		R4	R5	比較	教職員	97.4	89.5	-7.9	保護者	84.0	78.4	-5.6	地域住民	100.0	100.0	0
	R4	R5	比較																
教職員	97.4	89.5	-7.9																
保護者	84.0	78.4	-5.6																
地域住民	100.0	100.0	0																
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 (教職員・保護者) 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 肯定的回答 90%以上	① 月1回の安全点検や日常的な点検を強化し、危機管理意識の高揚を図るとともに、修繕等が必要な場合は速やかに対応し、安全が保たれるようにする。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>94.9</td><td>92.1</td><td>-2.8</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>88.7</td><td>86.1</td><td>-2.6</td></tr> </table> 【次年度の方針】 安全に配慮した環境づくりについては、目に見えにくい部分でもあるので、学校だよりやHPを活用し、安全に対する環境整備や取組を積極的に発信していく。		R4	R5	比較	教職員	94.9	92.1	-2.8	保護者	88.7	86.1	-2.6				
	R4	R5	比較																
教職員	94.9	92.1	-2.8																
保護者	88.7	86.1	-2.6																

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	6ー(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 （教職員） 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している」 肯定的回答85%以上	① 1人1台端末が有効利用できるための環境整備を行う。 ② コンピュータなどを活用した授業ができるよう、OJTや外部の研修等に積極的に取り組む。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>※</td><td>94.7</td><td></td></tr></table> 【次年度の方針】 職員研修のテーマに「1人1台端末の活用」を位置づけ、ICTの特性を生かした協働的学びにつながるアプリ等の研修を行う。		R4	R5	比較	教職員	※	94.7				
		R4	R5	比較												
	教職員	※	94.7													
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 （生徒・教職員） 「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」 肯定的回答90%以上	○① 校内外でのあいさつをさらに充実したものにするとともに、地域協議会や小学校と連携して、地域学校園全体であいさつ運動をさらに展開していく。 ② 校内のあいさつ運動や、小中合同のあいさつ運動に、教師が率先垂範で取り組んでいく。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>97.6</td><td>98.7</td><td>+1.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>89.7</td><td>97.4</td><td>+7.7</td></tr></table> 【次年度の方針】 校内のあいさつ運動などとは関係なく、普段の生活の場面で教師が率先垂範して挨拶を心掛ける。小中連携でのあいさつ運動は継続していく。		R4	R5	比較	生徒	97.6	98.7	+1.1	教職員	89.7	97.4	+7.7
		R4	R5	比較												
生徒	97.6	98.7	+1.1													
教職員	89.7	97.4	+7.7													
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 （生徒・教職員） 「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 肯定的回答90%以上	○① 時間を守る、身の回りの整理整頓や状況に応じた礼儀・態度など基本的生活習慣を身につけさせるとともに、登下校時の交通マナーの徹底に取り組む。 ② タイム着席や語先後礼式あいさつ、黙動等の本校独自の取組を、教職員が率先垂範の姿勢で行動し、生徒が自立的に取り組めるよう、指導の充実を図る。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>92.9</td><td>97.0</td><td>+4.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.4</td><td>100.0</td><td>+2.6</td></tr></table> 【次年度の方針】 自転車の乗り方に対する、地域からの申し出が減らない現状から、生活指導部の年間計画の中に、交通に関するルールとマナー向上に関する項目を追加し指導するとともに、下校指導を中心に力を入れていく。また、生徒会の活動とも連携を図りながら、交通マナーの向上に取り組む。		R4	R5	比較	生徒	92.9	97.0	+4.1	教職員	97.4	100.0	+2.6
		R4	R5	比較												
生徒	92.9	97.0	+4.1													
教職員	97.4	100.0	+2.6													
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B3 教員は、お互いの授業を参観しあうなど、授業実践を通して授業力向上を図っている。 【数値指標】 （教職員） 「教員は、授業実践を通して授業力向上を目指し、積極的に授業公開をしている」 肯定的回答85%以上	① それぞれの教員が、授業力の向上を目指し、年1回以上は公開授業を行う。異なる教科も含めて、同僚の授業を参観することで、授業改善の方策を探る。 ② 授業を参観するときには、批判的な見方はせず、授業者が前向きになれるようなコメント等を伝える。参観者からの授業に関するコメントを参考に、さらなる授業改善に臨む。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>※</td><td>73.7</td><td></td></tr></table> 【次年度の方針】 1人1授業の公開を継続して行うとともに、ネクストGIGAを見据え、1人1台端末を利用した授業実践に向けた、職員研修を位置付けるなど教員の更なる授業力向上に努める。		R4	R5	比較	教職員	※	73.7					
		R4	R5	比較												
教職員	※	73.7														

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体的に見ても、多くの項目で市内中学校の平均値と比較して上回っているか同程度の評価となっている。特に、時と場に応じたあいさつや、決まりやマナーを守って生活すること、思いやりの心を持っているの項目については、教職員・保護者・地域住民・生徒ともに肯定回答率が市の平均値を上回るとともに、90%を超えている。しかし、自転車の乗り方については、地域から申し出を受ける事が例年並みにあることから、行動と意識が一致していない傾向もみられるので、継続して指導していく必要がある。
- ・教職員の評価は、学習指導面や生徒指導面に関する項目で評価が高く、普段から生徒の状況を把握しながら、きめ細かな指

導を心掛けていることが見て取れる。反面、校内組織の活性化や、業務の効率化に関すること、同僚性やチーム意識に関することについて昨年度と比べると評価が下がっている項目が見られた。また、「持続可能な社会」についての取組が令和4年度以前より少し後退したことで、評価が下回った。引き続き、職員にとっても「勤めたい学校（帰属性のある組織）」に向け改善を進めていく必要がある。

- ・保護者の評価は、市内中学校の平均値と比較しても同程度である。いくつかの項目で、宇都宮市の平均を大きく下回っている。生徒や教職員の評価からも、その項目について実際の取り組みがなされていないわけではなく、取組の様子を十分に伝えていく学校側の努力が足りなかったと考える。
- ・生徒の評価は、市内中学校の平均値と比較して多くの項目で上回っているか同程度である。時計を見て行動する「タイム着席」の徹底や、学習習慣の確立など、非常に落ち着いた中で学習活動が実践されていることの表れであると考え。

7 学校関係者評価

- ・コロナ感染症減少後、学校を取り巻く環境も平常時に戻る中、また新しい時代の生活環境に則した慣れない学校生活に取り組む姿勢が生徒と教職員を見ていても苦労をしている点が見受けられていたが、そのような中でも工夫を重ね明るくより良い学校生活を生徒自ら創り上げているところが見受けられた。
- ・本年度は生徒会代表者と地域協議会とで意見交換の場を設け、今までよりも生徒たちの日常の学校生活も垣間見ることができ、私たち地域の者も生徒たちに何をしてあげられるかを再確認し来年度のかかわり方も検討できる場となった。これからも生徒たちと話し合える時間を設けていただこうと思います。
- ・地域資源を生かした学校支援として豊郷地区にある古墳の清掃作業を通して地域文化への理解と、地域住民との交流ができ特色のある活動となっているので、今後も続けていってほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・時計を見て行動する「タイム着席」の定着や基本的な学習習慣が確立している生徒が多く、学校全体として落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組める環境にある。小中一貫教育・地域学校園の取組として、小学校の運動会などの行事への中学生のボランティアとしての協力などの話が出てきているので実現できると良い。学校行事の充実や教職員との更なる信頼関係の充実などを通して「行きたい学校」の実現に向けて取り組む。
- ・大きな学校行事としては、文化祭の合唱コンクールを文化会館で実施、体育祭についても、全校一斉実施することができた。どちらの行事も保護者への全面公開ができた。しかし、それ以外で保護者が生徒の活動を見る機会がなかなか持てず、学校評価書の自由記述欄にも、学校や生徒の様子が分からず、評価することができないという意見が見られた。次年度は、今年度以上に学校の教育活動を間近で見てもらい工夫ができると良い。保護者にとって「通わせたい学校」を実感してもらえるよう、教育活動の充実と情報発信の工夫・改善を進めていく。
- ・教職員評価において、校内組織の活性化や、業務の効率化に関すること、また、同僚性やチーム意識に関することについて、評価が低い。教職員にとっても「勤めたい学校（帰属性のある組織）」に向け改善を進めていく。